

事前評価個表

整理番号	11
------	----

地域（地区）名	<small>ちくまがわじょうりゅう</small> 千曲川上流	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	長野県	対象市町村	<small>こもろし</small> 小諸市ほか 14 市町村
事業実施期間	R6 年度～R10 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本地区は、長野県東部に位置し、森林面積は 175 千 ha（森林率 71%）、民有林は 117 千 ha（森林全体の 67%）、そのうち人工林は 55 千 ha（人工林率 61%）となっており、カラマツを主体とした林業が展開されている。</p> <p>本地区の森林は、戦後の拡大造林により高齢級化が進んでいる一方、間伐の対象となる 3～12 齢級の人工林が 4 割を占めており、増大する利用可能な森林資源の活用と適正な管理が必要となっている。また、本地区はカラマツ材を利用した木材加工業が盛んであり、さらには東御市で木質バイオマス発電施設が整備されるなど、木材の安定供給の確保が求められている。</p> <p>このため、適切な主伐及び更新施業を行うとともに、下刈りや除伐、間伐等を実施し健全な森林を育成することで、森林資源の循環利用と水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能の維持増進を図っていく必要がある。</p> <p>しかしながら、林業を取り巻く環境は林業採算性の長期低迷や林業従事者数の減少（本地区でも令和 4 年度末現在の林業従事者数は 339 人と減少傾向にある）等により厳しい状況にあり、森林施業を進める上でその費用負担や担い手不足が課題となっている。</p> <p>このため、本地区では森林施業の集約化・機械化や森林作業道の作設等による森林整備及び木材生産の効率化を図っており、例えば、本地区の林業経営体の保有する高性能林業機械の台数は 103 台（令和 4 年度末現在）と県全体の 19%を占め、平成 30 年から 37 台増加している。また、本地区の令和 4 年度末現在の林道、森林作業道等の林内路網延長は 3,050km、林内路網密度は 26.1m/ha と県平均の 21.7m/ha を上回っているものの、更なる森林作業道の整備を推進しているところである。</p> <p>本事業は、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能の維持増進を図るとともに将来にわたっての木材の安定供給を確保するため必要となる森林整備を、適確かつ効率的に実施するものである。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：6,550ha</p> <p style="text-align: center;">人工造林、下刈り、枝打ち、保育間伐、間伐</p> <p>総事業費：3,100,298 千円（税抜き 2,818,452 千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C=6.90</p> <p>（総便益（B）=29,497,261 千円、総費用（C）=4,275,414 千円）</p>

評価結果	<p>必要性： 森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、主伐後の再生林や間伐等の森林整備が必要であることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 森林施業の集約化等により効率的な森林整備を実施することとしており、費用便益分析の結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 森林整備によって森林の有する公益的機能の維持増進及び将来にわたっての木材の安定供給の確保が図られることが期待されるため、事業の有効性が認められる。</p>
------	--

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：長野県

地域(地区)名：千曲川上流

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	8,360,970	
	流域貯水便益	1,798,561	
	水質浄化便益	7,061,941	
山地保全便益	土砂流出防止便益	9,878,349	
環境保全便益	炭素固定便益	264,765	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	2,132,675	
総 便 益 (B)		29,497,261	
総 費 用 (C)		4,275,414	
費用便益比	$B \div C = \frac{29,497,261}{4,275,414} = 6.90$		

森林環境保全整備事業 千曲川上流流域（長野県）概要図

